

令和6年度A日程
学力検査問題

1

国語

注意

- 1 開始の合図があるまで問題用紙を開いてはいけません。
- 2 解答用紙は問題用紙の中に挟んであります。
- 3 問題用紙は表紙を除いて7ページで、問題は□一から□四まであります。
- 4 開始の合図があったら、まず、問題用紙および解答用紙の所定の欄に
受検番号を書きなさい。
- 5 答えはすべて**解答用紙の指定された欄**に書きなさい。

受 検 番 号

【一】 次の(一)～(四)の問いに答えなさい。

(一) 次の1・2の文の——線部の漢字の読みがなを、それぞれ書きなさい。

- 1 この本には人名の索引がある。
- 2 健やかに成長する。

(二) 次の1・2の文の——線部のカタカナを、それぞれ適切な漢字に直して書きなさい。

- 1 米をチヨゾウする。
- 2 料理を器にモる。

(三) 漢字「神」の部首と同じ部首をもつ漢字を行書で書いたものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 秒
イ 祝
ウ 枝
エ 袖

(四) さとるさんの班では、国語の授業で詩と鑑賞文を読み、表現の工夫や効果について話し合った。次は、さとるさんたちが読んだ【詩】と【鑑賞文】である。また、後の【会話】は、さとるさんたちが話し合った内容の一部である。これらを読んで、後の1～7の問いに答えなさい。

【詩】
【鑑賞文】

海

黒田三郎
くろださぶろう

(小林真大『詩のトリセツ』による)
こばまこと

【会話】

さとる 私は、この詩の改行に注目しました。詩を読むとき、私たちは自然に、行の終わりで一息入れています。そうすることで、無意識のうちにリズムが生まれていると思います。作者は、改行によるリズムの効果に注目して、このような改行をしたのかもしれない。

あおい
そうですね。鑑賞文にもあるとおり、bので、一行一行が速く読めるようになっていきます。さらに、「駆け出し」、「叫び」、「笑い」、「手をふりまわし」、「砂をけり」という短い言葉で改行することで、一つ一つの動作のイメージが強調されていると、私は考えました。作者は、海の生き生きとした動きの一つ一つが強く印象に残り、あえて別々に表現したのではないかと思います。

すぐる
私は、「海は／荒々しい自然へ／かえしてくれる」という部分に注目しました。「荒々しい」と「自然へ」とを改行しないことで、「自然の荒々しさ」というイメージが読者の心に強く残ります。改行するかしないかは、詩のイメージを決めるという点で、重要な役割を持つていると感じました。

けん
皆さんが言うように、改行もこの詩の特徴だと思います。しかし私は、連が分かれていることに注目しました。この詩は「砂をけり」までと「飼いならされた」から後で、大きく二つの連に分かれています。作者は、前半では海の動きを見ていますが、後半では視点が「小さな心」に移っています。二つの連に分けることで、作者の視点の變化を示しているのではないかと、私は考えました。

めぐみ
主語である「海は」が、あえて後ろの方に置かれているところも、この詩の良さだと思います。海を見て、最初に作者が感じたのは、生命を感じさせる海の動きだったのでしょう。だから、まず前半で、飾り気のない子どもたちの動作のように、海の動きを表現したのだと思います。読者の心には、「駆け出し」や「叫び」といった、生き生きとした海の動きのイメージが真っ先に入ってきます。主語をcことによって生まれた効果だと言えるでしょう。

1 【詩】 中の——線部1の「小さな」の品詞名を、漢字で書きなさい。

2 【詩】 中の——線部2の「かえしてくれる」において、「かえして」と「くれる」の二つの文節はどのような関係にあるか。適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 修飾・被修飾の関係 イ 接続の関係 ウ 並立の関係 エ 補助の関係

3 【鑑賞文】 中の——線部3の助動詞「れる」の意味として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 受け身 イ 可能 ウ 自発 エ 尊敬

4 【鑑賞文】 中のaに当てはまる言葉として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 高貴さ イ 厳しさ ウ 素朴さ エ 細やかさ

5 【会話】 中のbに当てはまる言葉として最も適切なものを、【鑑賞文】中から十七字でそのまま抜き出して書きなさい。

6 【会話】 中のcに当てはまる適切な言葉を七字以内で書きなさい。

7 【会話】 中で、xとるさんたち五人が述べている内容の説明として誤っているものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 単語ごとに改行することで、海の動きを印象づける効果があると述べている。

イ 二つの連に分けることで、作者の視点が移る様子を表現していると述べている。

ウ 前半で海の様子を表すことにより、まず海の動きが読者に伝わると述べている。

エ どのように改行するかにより、詩のイメージが大きく左右されると述べている。

三 次の文章を読み、後の(一)～(四)の問いに答えなさい。

(注)

豊饒：豊かに多いさま。オケ：オーケストラのこと。アンサンブル：少人数の合奏・合唱。
ヴィブラート：音程を上下に細かく震わせる技法。シミュレートする：模擬実験する。
鷹揚：小さなことにこだわらない、ゆったりと落ち着いているさま。

(一) 文章中の [] に当てはまる言葉として最も適切なものを、文章中から三字でそのまま抜き出して書きなさい。

(二) 文章中の——線部1に「奏者の解釈が加わる」とあるが、筆者はここでどういうことを述べているか。その内容として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 奏者が、不一致の溝を埋めるため、正しい音にこだわって音を奏でているということ。

イ 奏者が、相互に音を聞き合って、ちがいを感知しながら音を奏でているということ。

ウ 奏者が、音楽家として受けてきた訓練を生かし、他者の願う音を奏でているということ。
エ 奏者が、音楽家としての美意識や価値観に基づき、自分の音を奏でているということ。

(三) 文章中の——線部2に「ところが面白いことに」とあるが、筆者は、何を「面白い」と捉え、どのような考察をしているか。その内容を次のように説明するとき、 [] に当てはまる適切な言葉を、六十文字以上八十文字以内で書きなさい。ただし、句読点その他の符号も字数に数えるものとする。

コンピュータの実験で、 [] と考察している。

(四) この文章の内容と構成を説明したものととして最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 初めに、オーケストラ奏者が抱える問題を提起し、次に、オーケストラと社会との相違点に触れ、最後に、今後のオーケストラは社会のあるべき姿を反映しなければならないことについて述べている。

イ 初めに、オーケストラ奏者が抱える葛藤について取り上げ、次に、オーケストラの奏でる音が豊かで温かな響きとなることを説明し、最後に、オーケストラと社会のあるべき姿との共通点について述べている。

ウ 初めに、オーケストラ奏者の音へのこだわりについて説明し、次に、オーケストラの音の魅力を語り、最後に、オーケストラにおける奏者の責任と社会における個人の役割の違いについて述べている。

エ 初めに、オーケストラ奏者が出す正しい音について説明し、次に、奏者が思い描く理想と現実の音のずれについて語り、最後に、オーケストラと迷惑をかけあう集団とに共通する孤独について述べている。

三 次の文章を読み、後の(一)・(二)の問いに答えなさい。

（『人間を究める』から、ひろのゆみこ廣野由美子の文章による。一部省略等がある）

（注）モチベーション：その人の心に働きかけ何らかの行動を起こさせるきっかけとなるもの。
のつぴきならない：避けることも退くこともできない。

認知の歪み：物事を自分の考え方の癖にしたがって解釈し、客観的に見づらくなっていること。
『フランケンシュタイン』：19世紀初めに、イギリスでメアリ・シェリーにより書かれた小説。
青年ウォルトン、科学者フランケンシュタイン、怪物の三人がそれぞれ一人称で語る。

（一） 文章中の——線部1に「今、私はこの作品を新たに翻訳することで、多くの人に読んでもらおうと努力しています」とあるが、筆者は、文学研究者にはどのような使命があり、どうあるべきだと考えているか。その内容を六十字以上八十字以内で書きなさい。ただし、句読点その他の符号も字数に数えるものとする。

（二） 文章中の——線部2に「文学は、人間が人間として生きるための力を養う宝庫なのです」とあるが、筆者は生きるための力が、文学によってどのように養われると述べているか。また、そのような筆者の考えについて、あなたはどのように考えるか。次の条件1～3にしたがって書きなさい。ただし、句読点その他の符号も字数に数えるものとする。

条件1 全体を百字以上百二十字以内にまとめること。

条件2 最初に、筆者の考えを説明し、次に、それに対する自分の考えを書くこと。

条件3 自分の考えについては、なぜそう考えるかという理由を明らかにして書くこと。

四 次の文章を読み、後の(一)～(四)の問いに答えなさい。

問ひて曰はく。昔より数知らず詠みたる歌のことなれば、今は風情も趣向もみなこれまで言ひ尽くして、おもしろく新しき歌は出で来ず。ことに和歌の詞は至りて少なきものなれば、もはや先輩にことごとく詠み尽くされて、今の歌はその跡を少しづつ詞を換へて詠むまでのことにて、我が物とは思はれず。何の詮もなきやうなり。

答へて曰はく。これ国歌を知らず。未熟至極の問ひなり。すべて歌は古き詞を取り用ひるを本意として、もとより用ひる詞定まりて、世々みな同じ詞の内を用ひ来たり。今迄詠まぬ詞なりとも、よき詞出で来たらば構はず用ひ詠むべけれども、昔より詠まぬ詞に麗はしき詞は、今詠み出づるといふことは大方ならぬことなり。さればただ古き詞にて新しく詠みなすべし。歌は古き詞にても、一字二字の分ち、てにはの使ひやうなどにて、格別に新しく取りなざるなり。趣向も今新しく格別に詠み出でんとすれば、異様に卑しくなりて甚だ嫌ふことなり。ただ古くより詠み来たる風情を、おもしろく新しく詠むが上手なり。歌知らぬ人は、詞も情も大方古きに似たれば、何のこともなき一通りの歌と思へど、さにあらず。続け柄、使ひやうによりて、詞も情も□□のことに甚だ新しくおもしろくなることなり。

(本居宣長『排蘆小船』による)

(注) ことに…特に。 詮もなき…意味もない。 至極…この上ない。

一字二字の分ち…一字二字の区別。 てには…助詞の「て」「に」「は」。

異様に…ふつうとは異なつて。 さにあらず…そうではない。 続け柄…続け方。

(一) 文章中の~~~~線部の「使ひやう」を現代仮名遣いに直して、~~~~線部全部をひらがなで書きなさい。

(二) 文章中の——線部に「我が物とは思はれず」とあるが、なぜ「我が物」と思われぬのか。その理由として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 昔からある数多くの和歌の一部を組み合わせて詠むだけだから。

イ 昔から詠み継がれてきた風情を新しい詞で詠むに過ぎないから。

ウ おもしろい和歌になるように詞をただつないで詠むだけだから。

エ これまで多くの人に用いられてきた詞で和歌を詠むしかないから。

(三) 文章中の□□に当てはまる言葉として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 今 イ 少し ウ 未熟 エ すべて

(四) この文章で述べられている内容の説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 歌は、古くから同じ詞を用いて詠まれてきたので、新しい詞で情を表現するよりも、古い詞を用いていた当時の人の思いを想像しながら詠むことが大切だと述べている。

イ 歌は、古くから詠まれてきた歌をまねることで上達するので、新しい詞を取り入れるよりも、古い詞を繰り返して詠むことが重要であると述べている。

ウ 歌は、本来、古い詞を用いて詠むことを大切にしてきたので、無理に新しい趣向を凝らすとするよりも、古い詞を用いて新しく詠むことがよいと述べている。

エ 歌は、古い詞を用いながら新しい趣向を凝らして詠むべきものだが、詠んだ歌が古い歌と似てしまうので、新しい詞を用いることが好ましいと述べている。